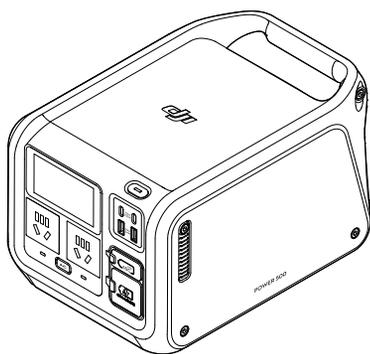
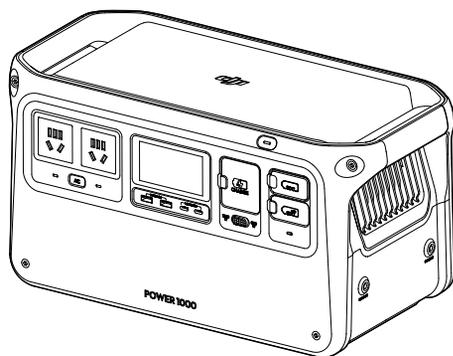


dji POWER 1000 POWER 500

ユーザーマニュアル

v1.0 2024.04





本書は、不許複製・禁無断転載を原則とするDJIの著作物のため、DJIから別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用、または他の人に使用を許可することはできません。ユーザーは、本書およびその内容をDJI製品の操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。

キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Readerを使用して本書をお読みの場合、WindowsではCtrl+F、MacではCommand+Fを押して検索を開始できます。

トピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

本書の印刷

本書は高解像度印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

- ☞ • DJI Power 1000とDJI Power 500の機能と操作はほぼ同等です。別途指定がない限りは、この文書ではDJI Power 1000を例として説明していますが、どちらの製品にも適用されます。

凡例

⚠ 重要

☞ ヒントとコツ

ご使用前にお読みいただくもの

DJI™はチュートリアルビデオと次の文書をご用意しています。

1. 安全ガイドライン
2. クイックスタートガイド
3. ユーザーマニュアル

初回使用前に、すべてのチュートリアルビデオを視聴し、安全ガイドラインを読むことをお勧めします。初めての使用に際しては「クイックスタートガイド」をよく読み、詳細に関しては本ユーザーマニュアルを参照してください。

チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするか、QRコードをスキャンすると、製品の安全な使用方法を実演するチュートリアルビデオを視聴できます。

DJI Power 1000



<https://s.dji.com/guide67>

DJI Power 500



<https://s.dji.com/guide69>

DJI Assistant 2のダウンロード

DJI Assistant™ 2 (Powerシリーズ) を次のURLからダウンロードします：

<https://www.dji.com/power-1000/downloads> または <https://www.dji.com/power-500/downloads>

目次

本マニュアルの使用方法	3
凡例	3
ご使用前にお読みいただくもの	3
チュートリアルビデオ	3
DJI Assistant 2 のダウンロード	3
はじめに	5
製品の特徴	5
ディスプレイ画面	6
電源のオン／オフ	7
外部デバイスの充電	8
AC 出力	8
USB 出力	9
DJI 製 機体バッテリーの急速充電	9
その他の SDC 出力	10
パワーステーションの充電	11
AC 充電	11
太陽光での充電	12
自動車からの充電	13
USB-C からの充電	13
無停電電源装置 (UPS)	14
DJI Power 1000 の拡張	15
1/4 インチ ねじ穴	15
保護収納バッグ	15
付録	16
ファームウェア更新	16
トラブルシューティング	17
メンテナンス	17
アクセサリオプション (別売)	18
仕様	20
DJI Power 1000	20
DJI Power 500	21

はじめに

DJI Power 1000は、容量1024 Wh、重量約13 kgで最大出力電力2200 W（日本仕様：2000 W）に対応し、DJI Power 500は、容量512 Wh、重量約7.3 kgで最大出力電力1000 Wに対応するポータブルパワーステーション（ポータブル電源）です。

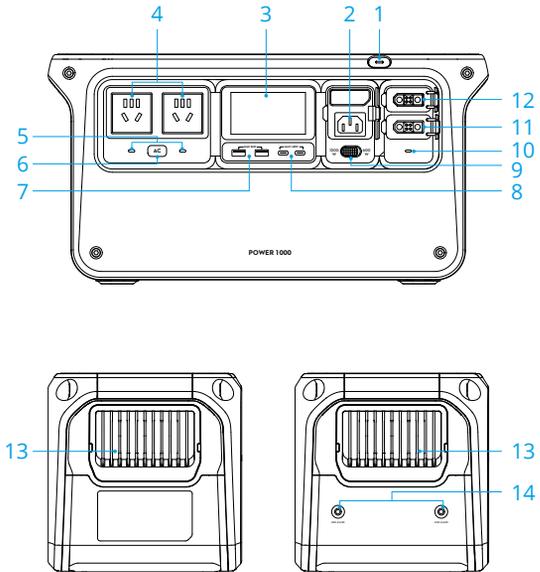
このパワーステーションは、AC充電用に急速充電モードと標準充電モードを備えています。急速充電モードでは、パワーステーションは約50分間で80%まで急速充電でき、約70分で100%まで充電できます。^[1] 標準充電モードでは、動作騒音を低減でき、バッテリーセルの寿命を延ばすことができます。また、このモードでは、パワーステーションは約2時間で100%まで充電できます。^[1] パワーステーションにはSDC/SDC Liteポートが搭載されています。別のDJI電源アクセサリを使用すると、パワーステーションはDJIインテリジェント フライトバッテリーや他の種類のデバイスを充電でき、様々なシナリオで電源を供給できます。

[1] 換気の良い、室温25℃の環境下で測定。この測定値はあくまで参照用です。

製品の特徴

DJI Power 1000

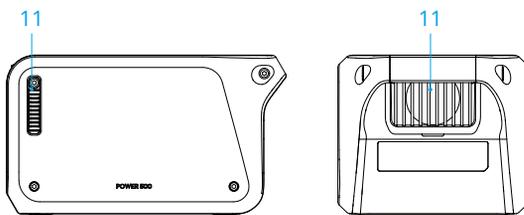
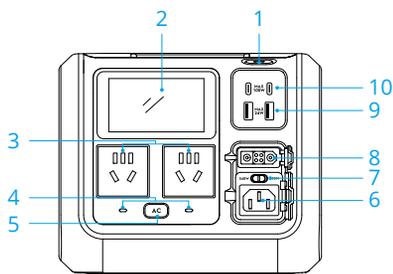
1. 電源ボタン
2. AC入力ポート
3. ディスプレイ画面
4. AC出力ポート^[1]
5. AC出力インジケータ
6. AC出力ボタン
7. USB-Aポート
8. USB-Cポート
9. 充電モードスイッチ
10. SDCポート インジケータ
11. SDC Liteポート
12. SDCポート
13. 通気口
14. 1/4インチ ねじ穴



[1] ユーザーマニュアル内のイラストは、国や地域により、実際の製品と異なる場合があります。実際の製品を参照してください。

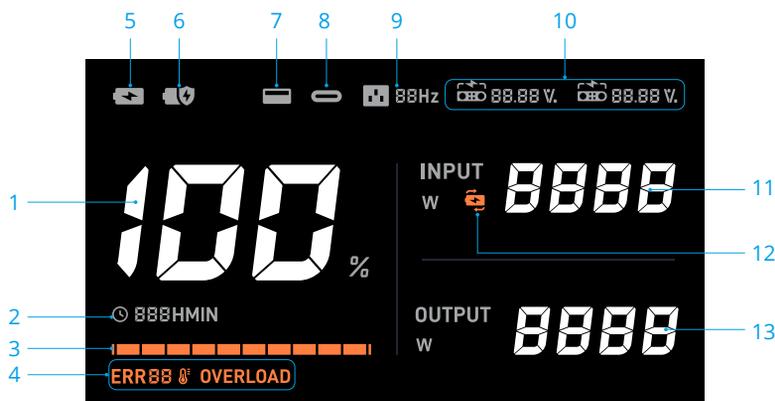
DJI Power 500

1. 電源ボタン
2. ディスプレイ画面
3. AC出力ポート^[1]
4. AC出力インジケータ
5. AC出力ボタン
6. AC入力ポート
7. 充電モードスイッチ
8. SDC Liteポート
9. USB-Aポート
10. USB-Cポート
11. 通気口



[1] ユーザーマニュアル内のイラストは、国や地域により、実際の製品と異なる場合があります。実際の製品を参照してください。

ディスプレイ画面



1. パワーステーションの現在のバッテリー残量を表示します。
2. 外部デバイス充電中は、パワーステーションの残りの使用可能時間を表示します。パワーステーション充電中は、パワーステーションの現在のバッテリー残量から完全充電するために必要な残り時間を表示します。

3. **バッテリー残量バー**：パワーステーション充電中は、バッテリー残量バーが左から右に順番に点滅します。外部デバイス充電中は、パワーステーションのバッテリー残量バーの右端にあるグリッドが点滅します。

4. システム警告

ERR88：エラーコード

：温度エラー急速充電モード時に温度の異常が発生した場合、ディスプレイ画面に温度エラーアイコンがゆっくり点滅します。バッテリーセル寿命と安全性を確保するため、実際の充電電力は低減される場合があります。極端な高温や低温の場合、アイコンが点灯します。温度が正常に戻るのを待ってください。

OVERLOAD：過負荷警告

：警告の詳細とそれに対応するトラブルシューティングについては、<https://s.dji.com/DJI-Power>をご確認ください。

5. ：急速充電モードでAC充電中。

6. ：標準充電モードでAC充電中。

7. ：USB-Aポート。

8. ：USB-Cポート。

9.  **88Hz**：AC出力周波数。

10. SDC/SDC Liteポート

：SDC/SDC Liteポート経由でパワーステーションまたは外部デバイスを充電中。

88.88V：SDC/SDC Liteポート使用時の電圧値。

88.88%：SDC/SDC Liteポート経由でバッテリー充電中のインテリジェントフライトバッテリーのバッテリー残量。

11. 入力電力

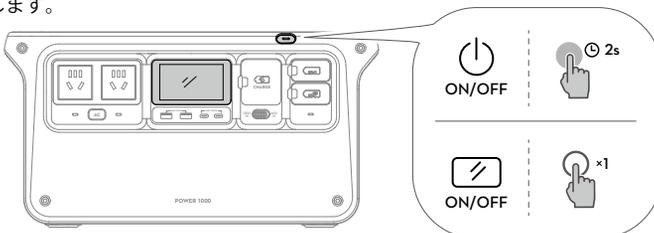
12.  **無停電電源装置 (UPS)**：パワーステーションがAC電源コンセントに接続され、AC出力を同時に使用している場合、デフォルトでUPSが有効になります。この機能は、一部の地域で使用できません。詳細については、現地の法規制を確認してください。

13. 出力電力

電源のオン／オフ

1. **電源のオン／オフ**：電源ボタンを2秒間以上長押しします。電源が入ると、ディスプレイ画面が自動的にオンになります。

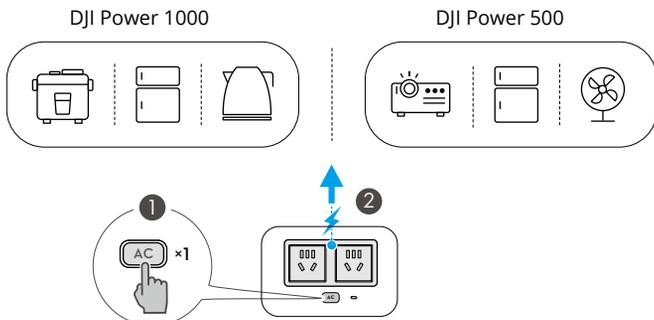
2. **ディスプレイ画面のオン／オフ**：パワーステーションの電源が入っているときに、電源ボタンを1回押します。



外部デバイスの充電

AC出力

パワーステーションには、2つのAC出力ポートが搭載されています。外部デバイスをAC出力ポートに接続し、AC出力ボタンを押してAC電源を供給します。



節電のために、パワーステーションには、自動AC出力オフ機能と自動電源オフ機能が搭載されています。

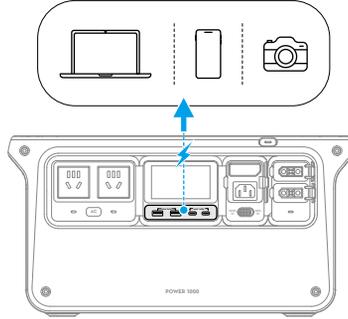
- ・ **自動AC出力オフ**：AC出力ボタンを1回押すと、AC出力が有効になり、AC出力インジケータがゆっくりと点滅します。パワーステーションがAC出力ポート経由でどのデバイスも充電していない状態が30分間続くと、節電のためにAC出力が自動的にオフになります。
- ・ **連続AC出力**：AC出力ボタンを長押ししてAC出力を有効にすると、AC出力インジケータは常時点灯し、AC出力は自動的にオフにならなくなります。これにより、冷蔵庫などの断続的に動作する外部デバイスへ、AC電源を連続して供給できます。
- ・ **低電力出力時の自動電源オフ**：AC出力が無効で、パワーステーションが1時間どのデバイスにも充電していない状態であれば、自動的に電源がオフになります。

異なる周波数のAC入力電力で充電されると、パワーステーションは自動的に入力電力と同じ周波数に切り替えます。AC出力周波数を手で切り替えるには、AC出力の有効時にAC電源コンセントからパワーステーションのプラグを抜き、それからAC出力ボタンを10秒間長押しします。

- 💡 ・ 内部にある電気部品は、防水コーティングされています。大容量の電力を使用する時、かすかに匂いが発生する場合があります。その匂いは、日常での使用で自然と消失します。

USB出力

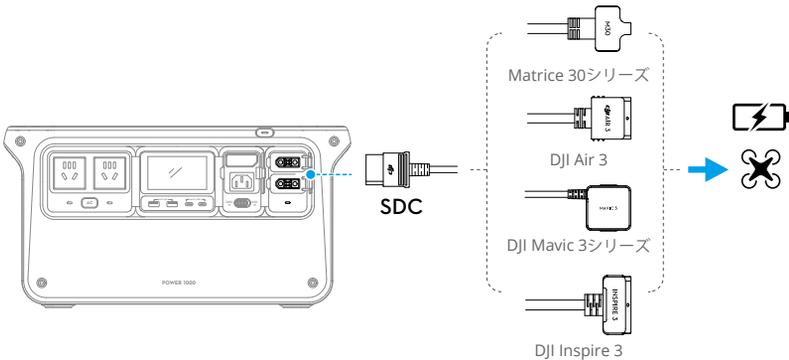
パワーステーションには、2つのUSB-Aポートと2つのUSB-Cポートが搭載されています。電源供給するには、外部デバイスをUSB-AまたはUSB-Cポートに接続します。



DJI製 機体バッテリーの急速充電

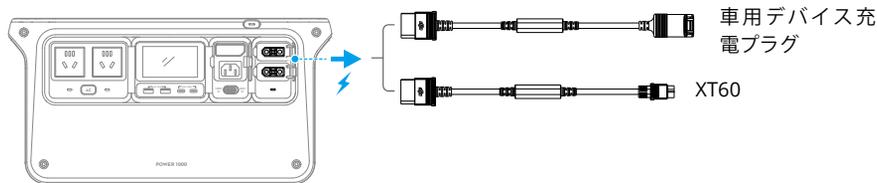
DJI Power 1000にはSDCポートとSDC Liteポートが搭載され、DJI Power 500にはSDC Liteポートが搭載されています。

パワーステーションは、SDC急速充電ケーブル（別売）を使用して、対応するDJIインテリジェントフライトバッテリーを急速充電できます。



その他のSDC出力

パワーステーションは、SDC/SDC Liteポート経由で別のSDCケーブル（別売）を使用して別のデバイスにも充電することができます。



DJI Power SDC - 車用デバイス充電プラグ 電源ケーブル (12 V)

パワーステーションは、このケーブルを使用して、車載冷蔵庫などの自動車から電源供給されるデバイスの充電を行えます。

- ⚠️ 外部デバイスが、ケーブルの出力仕様（電圧 13.6 V、電流 10 A、電力 136 W）範囲内であることを必ず確認してください。

DJI Power SDC - XT60 電源ケーブル (12 V)

パワーステーションは、このケーブルを使用してXT60ポートがあるデバイスに12V DC入力電圧を供給できます。

- ⚠️ DJI Power SDC - XT60 電源ケーブルを使用してXT60ポートにリチウムバッテリーを直接接続しないでください。パワーステーションは、必ず最初にバランス充電器と接続してください。

パワーステーションの充電

AC充電

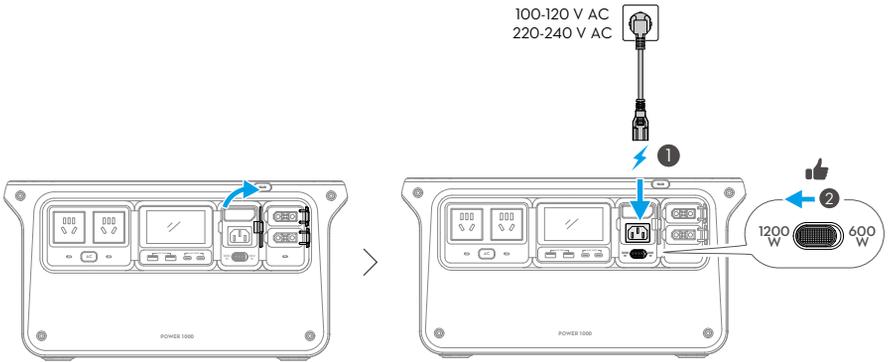
パワーステーションは、AC充電用に急速充電モードと標準充電モードを備えています。

急速充電モード：急速充電モードでは、充電電力が大きくなります。パワーステーションのバッテリー残量が80%まで充電するには約50分かかり、100%まで充電するには約70分かかります。

標準充電モード：標準充電モードでは、充電電力がより小さく、動作騒音を低減でき、夜間の充電に適しています。標準充電モードで充電すれば、バッテリーセルの寿命を延ばすことができます。このモードで、パワーステーションを100%まで充電するには約2時間かかります。

DJI Power 1000を例として、以下の手順でAC充電を行います。

1. ポートカバーを開き、同梱のAC電源ケーブルを使用して、DJI Power 1000をAC電源コンセントに接続します。
2. 充電モードスイッチを切り替え、充電モードを1200 W 急速充電モード、または600 W 標準充電モードに設定します。DJI Power 500では、充電モードを540 W 急速充電モード、または270 W 標準充電モードに設定できます。



- ⚠ 充電が完了したら、AC電源コンセントから電源プラグを抜きます。
- バッテリーセルの寿命を延ばすには、標準充電モードの使用をお勧めします。
- パワーステーションには、バッテリーセル寿命保護対策が取られています。パワーステーションを急速充電モードで5回連続充電すると、バッテリーメンテナンスのために、パワーステーションは6回目の急速充電した後に標準充電モードに自動的に切り替わります。メンテナンス処理は約20分間続きます。
- 急速充電モードで温度が高すぎるときは、ディスプレイ画面の温度エラー警告がゆっくりと点滅し、実際の充電電力が低下する場合がありますが、これは正常です。

太陽光での充電

DJI Power ソーラーパネルアダプターモジュール (MPPT) もしくは DJI Power 車内電源ソケット - SDC 電源ケーブルを使用して、パワーステーションはソーラーパネルに接続でき、太陽光発電で充電します。どちらのアクセサリも別売です。

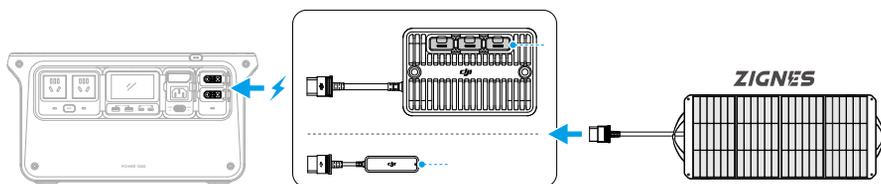
DJI Power 1000 を例として、以下の手順で太陽光充電を行います。

1. ソーラーパネルを展開し、支柱で支えて、パネル表面を太陽光に向けて配置します。支柱の角度を調整します。ソーラーパネルの表面が太陽光に対して垂直になるようにしてください。ソーラーパネルが障害物で覆われていないことを確認してください。
2. XT60ケーブルを使用して、ソーラーパネルをソーラーパネル アダプターモジュールに接続して、充電を開始します。

1



2

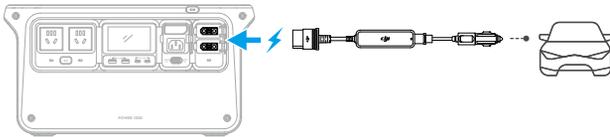


- ⚠ ソーラーパネルの使用方法は、指示に従ってください。ソーラーパネルの種類を混合して使用しないでください。デバイスが破損する恐れがあります。
- アダプターモジュールには最大3枚のソーラーパネルを接続でき、並列で使用できます。(直列では使用できません) DJI Power 1000は、2台のソーラーパネルアダプターモジュール経由で、最大6台のソーラーパネルに接続して太陽光充電を行えます。DJI Power 500は、1台のソーラーパネルアダプターモジュール経由で、最大3台のソーラーパネルに接続して太陽光充電を行えます。
- DJI Power 車内電源ソケット - SDC 電源ケーブルを使用する場合、ソーラーパネルを一つ接続して、太陽光発電で充電できます。ソーラーパネルの最大電流は10 Aより低く、最大出力は100 Wより低くする必要があります。

- ⚠️ • DJI認定のZignesソーラーパネルの使用をお勧めします。推奨のソーラーパネル以外を使用する場合、ソーラーパネルアダプターやパワーステーションが損傷するのを避けるため、ソーラーパネルが以下の要件を全て満たしているか、確認してください。
 - a. 開放電圧が30 V未満。
 - b. 使用するソーラーパネルの1枚の最大電流が、10 A未満。
 - c. 複数のソーラーパネルを使用する場合、総電力が400 W未満。
- DJI Power 500では、太陽光充電にSDC Liteポートを使用した場合、最大入力電力が300 Wに制限されます。
- 充電中は、パワーステーションを直射日光から遠ざけてください。過熱によりデバイスが損傷する可能性があります。
- 太陽光パネルの表面が、木の葉やその他の物体で覆われないようにしてください。部分的に日陰になる場所にソーラーパネルを設置すると、発電効率に影響を及ぼし、部品の損傷を引き起こす恐れがある過電流の原因になります。
- きれいな水で湿らせた柔らかい布で、表面を拭き、ソーラーパネルを清掃してください。

自動車からの充電

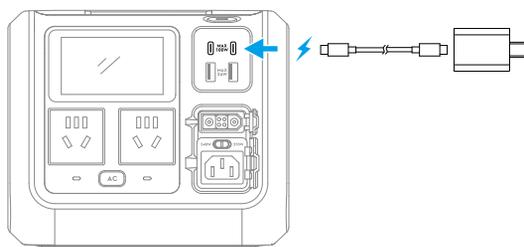
自動車から充電するには、DJI Power 車内電源ソケット - SDC 電源ケーブルを使用して、自動車の電源ポートとSDCポート（またはSDC Liteポート）に接続します。



- ⚠️ • 自動車の電源ポートの入力電圧が12~30 Vの範囲内であり、最大入力電流が8 A未満であることを必ず確認してください。それ以外の場合、性能の異常を引き起こしたり、場合によっては電源ステーションに損傷を与える場合があります。
- 電源アダプターが自動車の電源ポートにしっかりと接続され、自動車のエンジンが充電前に始動したことを確認します。

USB-Cからの充電

DJI Power 500は、USB-Cポート経由でUSB PD規格対応充電器を使用して、最大100 Wの充電が可能です。また、同時給電にも対応しており、2つのUSB-Cポートを使用して、最大200 Wの充電が可能です。

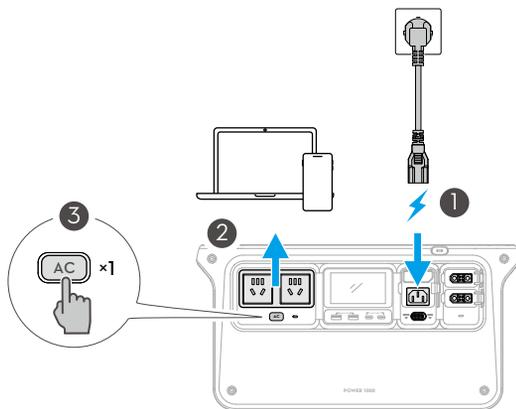


無停電電源装置 (UPS)

パワーステーションは、無停電電源装置 (UPS) に対応しています。パワーステーションをAC電源コンセントに接続し、パソコンなどの外部デバイスをパワーステーションに接続します。ACボタンを1回押すと、ディスプレイ画面にが表示されます。この場合、AC電源コンセントはパワーステーションと接続デバイスの両方に電力を供給します。デフォルトで、UPSは有効になっています。ご注意ください。

突然停電した場合は、パワーステーションは20ミリ秒以内にバッテリー供給電源に自動で切り替え、接続されたデバイスが通常通り動作できるようにします。

停電が発生し、パワーステーションのバッテリーが切れた場合、電力供給再開後にAC出力を自動的に有効にすることが可能です。パワーステーションをACコンセントと外部機器に接続し、ACボタンを長押しすると、この機能が有効になります。



- ⚠️
- パワーステーションは基本的なUPS機能のみに対応し、0ミリ秒での切り替えには対応していません。医療用装置、データサーバー、重要なデータを保管しているワークステーションなどの0ミリ秒UPSを必要とするデバイスにパワーステーションを接続しないでください。デバイスの故障やデータ消失の原因になる場合があります。
 - この機能は、一部の地域で使用できません。詳細については、現地の法規制を確認してください。

DJI Power 1000の拡張

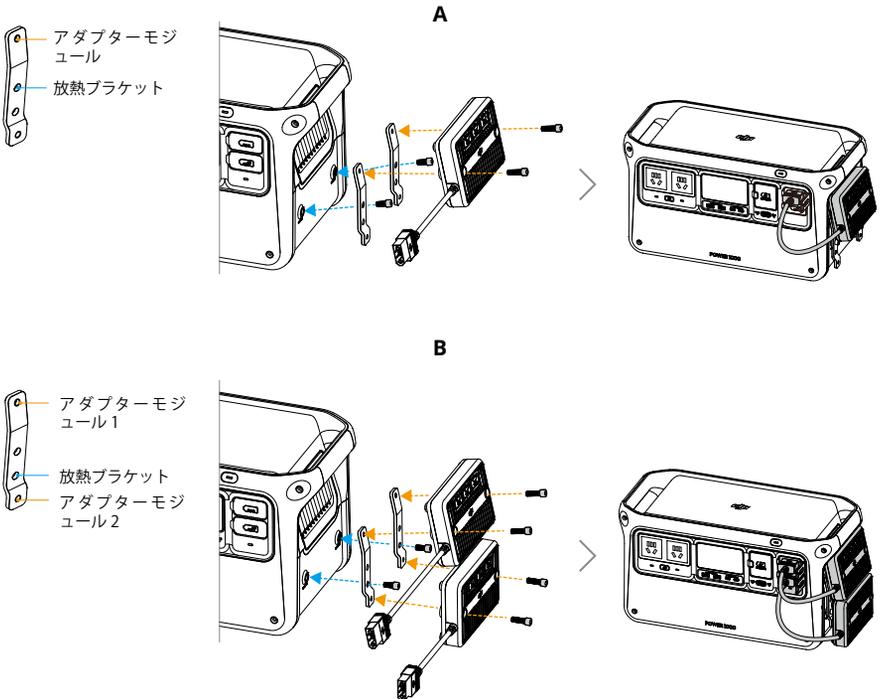
1/4インチ ねじ穴

DJI Power 1000は1/4ねじ穴を2つ搭載し、以下に示すように、DJI Power ソーラーパネル アダプターモジュール (MPPT)をパワーステーションに取り付けることができます。

一つのアダプターモジュールをパワーステーションに取り付ける場合は、図Aに従ってください。

ブラケットの底部にある取り付け穴を揃え、2つのアダプターモジュールをパワーステーションに取り付ける場合は、図Bに従ってください。

☀️ ・ユーザーは、1/4インチねじを使用して、デバイスをパワーステーションに取り付けることもできます。

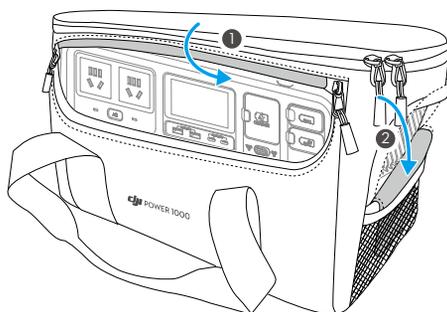


保護収納バッグ

DJI Power 1000では保護収納バッグを使用できます。このバッグは、パワーステーションを擦り傷やほこりから保護し、パワーステーションの持ち運びの利便性が向上します。

バッグの前面を開けると外部デバイスをパワーステーションに接続することができ、バッグの背面はケーブルとアクセサリを保管できます。

DJI Power 1000を保護収納バッグに入れて使用する場合は、過熱の原因となる恐れがあるので、通気口の塞がないように必ず両側のファスナーを開けた状態にしておいてください。

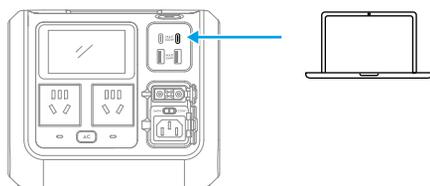
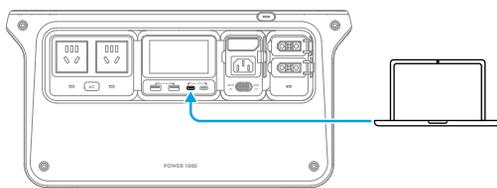


付録

ファームウェア更新

DJI Power 1000とDJI Power 500のファームウェアは、DJI Assistant 2を使用して更新できます。ファームウェア更新の前に、パソコンがインターネットに接続されていることを必ず確認してください。以下の手順に従って、必ずファームウェア更新を実行してください。

1. デバイスの電源を切り、ACボタンと電源ボタンを同時に長押しして、ディスプレイ画面に[LOAD]が表示されるまで待ちます。
2. 下図で示すように、パソコンを指定のUSB-Cポートに接続します。



3. 定格電圧が100 Vまたは120 VのDJI Power 1000 モデルのファームウェアを更新する場合には、デバイスをAC電源コンセントに接続します。その他のパワーステーション モデルのファームウェアを更新する場合は、この手順をスキップしてください。
4. DJI Assistant 2 を起動し、製品を選択して、左側にあるファームウェア更新ボタンをクリックします。
5. ファームウェアを選択し、DJI Assistant 2のプロンプトを注意深く読み、[更新]をクリックしま

す。ファームウェアがダウンロードされ、自動的にデバイスにアップロードされます。

6. ファームウェアが自動的に更新され、ディスプレイ画面に更新の進捗が表示されます。処理が完了するまで待ちます。ファームウェア更新が完了すると、デバイスが自動的に再起動します。

- ⚠
- ・ファームウェア更新中は、デバイスの電源を切ったり、デバイスをパソコンから取り外したりしないでください。
 - ・定格電圧100 Vまたは120 VのDJI Power 1000 モデルのファームウェア更新している場合は、デバイスの電源プラグをAC電源コンセントから抜かないでください。
 - ・ファームウェア更新に失敗すると、ディスプレイ画面に[UPGD FAIL]と表示されます。その場合、デバイスをパソコンとAC電源コンセントから取り外し、電源ボタンを5秒間長押ししてデバイスの電源を切り、再試行してください。

トラブルシューティング

ディスプレイ画面に何らかのシステム警告が表示されている場合、下のリンクをクリックする、もしくはQRコードをスキャンして、警告の詳細や対応するトラブルシューティングについて確認してください。問題が解決しない場合、DJIサポートにお問い合わせください。



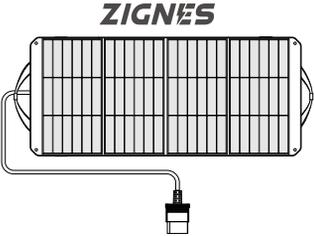
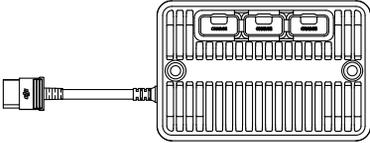
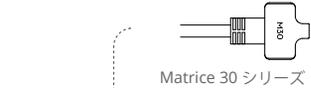
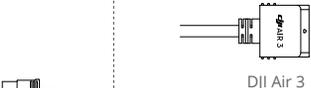
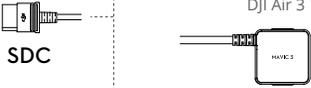
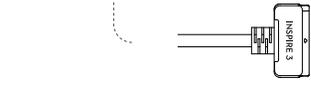
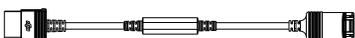
<https://s.dji.com/DJI-Power>

メンテナンス

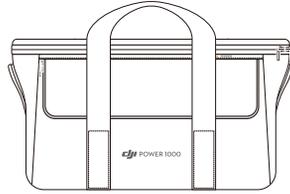
- ・パワーステーションを長期間保管する必要がある場合は、パワーステーションのバッテリー残量を60%まで放電することをお勧めします。バッテリー残量が高い状態で保管すると、バッテリーセルの寿命が短くなります。低い電力レベルで保管すると、過放電状態になる恐れがあります。
- ・パワーステーションは、直射日光の当たらない涼しく乾燥した環境で、-10℃~45℃の保管環境温度で保管する必要があります。パワーステーションを水中や水漏れの可能性がある場所に置かないでください。
- ・完全に放電した後で、パワーステーションを長期間保管しないでください。バッテリーが過放電し、バッテリーセルが修理不能な損傷を負うおそれがあります。
- ・バッテリーの性能を確保するために、パワーステーションを4ヶ月に1回充電および放電します。パワーステーションをバッテリー残量15%まで放電し、2時間以上電源を切ってから、標準充電モードで100%まで充電してください。
- ・ポートの汚れが目立つ場合は、きれいな乾いた布で拭いてください。アルコールやその他の可燃性溶剤で、パワーステーションを清掃しないでください。

アクセサリーオプション (別売)

別途指定のない限り、アクセサリーはDJI Power 1000 とDJI Power 500の両方に対応しています。

Zignes ソーラーパネル	 <p style="text-align: center;">ZIGNES</p>
DJI Power ソーラーパネル アダプターモジュール (MPPT)	
DJI Power 車内電源ソケット - SDC 電源ケーブル (12V/24V)	
DJI Power SDC - Matrice 30シリーズ 急速充電ケーブル	 <p style="text-align: right;">Matrice 30 シリーズ</p>
DJI Power SDC - DJI Mavic 3シリーズ 急速充電ケーブル	 <p style="text-align: right;">DJI Air 3</p>
DJI Power SDC - DJI Air 3 急速充電ケーブル	 <p style="text-align: right;">DJI Mavic 3 シリーズ</p>
DJI Power SDC - DJI Inspire 3 急速充電ケーブル	 <p style="text-align: right;">DJI Inspire 3</p>
DJI Power SDC - XT60 電源ケーブル (12V)	
DJI Power SDC - 車用デバイス充電プラグ電源ケーブル (12V)	

DJI Power 1000 保護収納バッグ
(DJI Power 1000のみ対応)



仕様

DJI Power 1000

一般	
モデル	DYM1000L/DYM1000H
容量	1024 Wh
正味重量	約13 kg
サイズ	448×225×230 mm (長さ×幅×高さ)
最大運用高度	3000 m
出力ポート	
AC出力 ^[1] (×2)	DYM1000L: 100~120 V AC、50/60 Hz、1800 W (定格)、2200 W (最大連続出力) DYM1000H: 220~240 V AC、50/60 Hz、1800 W (定格)、2200 W (最大連続出力)
AC出力 (バイパスモード)	DYM1000L: 100~120 V AC、12 A、1440 W DYM1000H: 220~240 V AC、10 A、2200 W
USB-A出力 (×2)	5 V ⎓ 3 A / 9 V ⎓ 2 A / 12 V ⎓ 2 A チャンネルごとの最大出力電力: 24 W
USB-C出力 (×2)	5/9/12/15/20/28 V ⎓ 5 A 最大 140 W (ポートあたり) ^[2]
SDC出力 (×2)	SDC ^[3] : 9~27 V、最大 10 A、最大 240 W SDC Lite: 9~27 V、最大 10 A、最大 240 W
入力ポート	
AC入力	DYM1000L: 100~120 V AC、12 A、1200 W (充電)、1440 W (バイパス) DYM1000H: 220~240 V AC、10 A、1200 W (充電)、2200 W (バイパス)
SDC入力 (×2)	SDC ^[3] : 32~58.4 V DC、最大 400 W、最大 8 A SDC Lite: 32~58.4 V DC、最大 400 W、最大 8 A
バッテリー	
セルの材料	LFP電池 (リン酸鉄リチウムイオン電池)
サイクル寿命 ^[4]	3000サイクル以降は、80%以上のバッテリー容量を維持
動作環境温度	
電源温度	-10°C~45°C
充電温度範囲	0°C~45°C
保管環境温度	-10°C~45°C

[1] 最大連続出力電力は、バッテリー残量が20%以上の場合に使用できます。AC出力データは、国や地域によって異なります。日本国内では、電圧が100 Vであるため、日本版の最大連続出力電力は2000 Wです。

[2] USB-Cポートは140 Wの最大出力に対応しています。充電するデバイスがPD 3.1プロトコルに対応し、EPR(拡張電力域)の仕様に合致したUSBケーブルを使用する必要があります。

[3] SDCポートは、様々なアクセサリに幅広く対応しています。

[4] サイクル寿命は、出力電力1000 W、室温25°C、600 Wの標準充電モードで測定した値です。

DJI Power 500

一般

モデル	DYM500L/DYM500H
容量	512 Wh
正味重量	約7.3 kg
サイズ	305×207×177 mm (長さ×幅×高さ)
最大運用高度	3000 m

出力ポート

AC出力 ^[1] (×2)	DYM500L: 100~120 V AC、50/60 Hz、800 W (定格)、1000 W (最大連続出力) DYM500H: 220~240 V AC、50/60 Hz、800 W (定格)、1000 W (最大連続出力)
AC出力 (バイパスモード)	DYM500L: 100~120 V AC、最大 1000 W DYM500H: 220~240 V AC、最大 1000 W
USB-A出力 (×2)	5 V ⎓ 3 A / 9 V ⎓ 2 A / 12 V ⎓ 2 A ポートあたりの最大出力電力: 24 W
USB-C出力 (×2)	5/9/12/15/20 V ⎓ 5 A 最大 100 W (ポートあたり) (PD3.0プロトコルに対応している必要あり)
SDC出力	SDC Lite: 9~27 V、最大 240 W

入力ポート

AC入力	DYM500L: 100~120 V AC、540 W (充電)、1000 W (バイパス) DYM500H: 220~240 V AC、540 W (充電)、1000 W (バイパス)
SDC入力	SDC Lite: DC22.4~29.2 V、最大 300 W、最大 10 A
USB-C入力	5~20 V DC、最大 100 W (PDプロトコルに対応している必要あり) 2つのUSB-Cポートで最大200 Wの同時給電に対応しています。

バッテリー

セルの材料	LFP電池 (リン酸鉄リチウムイオン電池)
サイクル寿命 ^[2]	3000サイクル以降は、80%以上のバッテリー容量を維持

動作環境温度

電源温度	-10°C~45°C
充電温度範囲	0°C~45°C
保管環境温度	-10°C~45°C

[1] 最大連続出力電力は、バッテリー残量が20%を超えている場合に利用できます。

[2] サイクル寿命は、出力電力500 W、室温25℃、270 Wの標準充電モードで測定した値です。

お問い合わせはコチラ



連絡先
DJI サポート

本内容は予告なく変更される場合があります。



<https://www.dji.com/power-1000/downloads>
<https://www.dji.com/power-500/downloads>

本書についてご質問がある場合は、以下にメッセージを送信してDJIまでお問い合わせください。DocSupport@dji.com

DJIは、DJIの商標です。
Copyright © 2024 DJI All Rights Reserved.